

科目名	在宅看護方法Ⅰ (対象別看護) In-Home Nursing Ⅰ		担当教員 (研究室番号)	日比野 直子 (406)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次後期	科目区分	専門科目・広域看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	事例をもとに、多様な療養児者の身体的・精神的状況とその家族の生活について理解を深め、在宅での支援に必要な看護技術や社会資源について学ぶ。											
ディファ・ホリソン(DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現) F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
到達目標	1. 在宅において医療や看護を提供するにあたり、必要となる知識や技術について説明できる。 2. 対象に応じた社会資源の内容や活用方法について説明できる。											
成績評価方法(基準)		筆記試験(40%)、課題レポート(60%)										
再試験の有無と基準等		再試験有。不合格者は再試験受験資格者とする。再試験の内容は面談で確認しレポート課題とする。										
教科書		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論Ⅰ 医学書院										
参考書等		家族看護を基盤とした地域・在宅看護論第5版 日本看護協会出版会										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		授業中に、講義内容に関連する問題提起を行い、自身が考えたことを発言したり記述していただきます。 模擬事例やDVDの視聴を通して、在宅療養者と家族の生活を捉え、支えることの重要性や多職種連携の必要性について考えてみてください。社会の出来事にも関心を持ち講義に臨んでください。										
備考		在宅看護学概論の単位を履修していなければ受講できない。										
回	学習項目			学習内容					主担当教員	授業方法		
1回	在宅療養生活を支える基本的な技術			在宅療養者とその家族を一つの単位として捉えることの重要性を学ぶ。 在宅看護の基本的な「食」「排泄」「清潔」「呼吸」「睡眠」「コミュニケーション」について学ぶ。					日比野	講義		
2回	在宅で行うケアの実際 1			在宅での栄養ケアとマネジメント(栄養のアセスメント・食欲低下時・下痢や便秘時のケア・嚥下障害・脱水時のケア)					平生	講義		
3回	在宅で行うケアの実際 2			在宅での呼吸のアセスメントとケア(呼吸管理・排痰・吸引・吸入など・呼吸困難時や緊急時の対応)					日比野	講義		
4回	療養場所の移行に向けた看護			在宅療養者と家族の意思決定支援と調整について保険者・介護保険事業者・地域支援事業者と退院支援・退院調整に関わる医療機関との連携について学ぶ。					平生	講義		
5回	対象別在宅看護の実際 1			在宅療養しながら生活する子どもと家族を支える看護について学ぶ。 (先天性疾患により治療を受けながら地域で成長していく事例)					日比野	講義		
6回	対象別在宅看護の実際 2			独居・日中独居、高齢者のみ世帯、要支援・要介護高齢者と家族を支える看護について学ぶ。(介護予防や複数の疾患を抱える高齢者・認知症患者と家族の世帯など)					平生	講義		
7回	対象別在宅看護の実際 3			高齢者虐待、セルフネグレクトなどが疑われる療養者について自立した生活を維持するための生活支援について考える。					日比野	講義		
8回	対象別在宅看護の実際 4			在宅で終末期を迎える療養者と家族を支える看護について学ぶ。(在宅で行われる緩和ケアと看取り・訪問看護師によるグリーフケア)					日比野	講義		

学 習 課 題	
1～8回共通の事前課題：学習項目の内容について教科書や関連するテキストを一読して講義に臨んでください。	
課題提出①：2回目講義時提出 在宅療養生活環境について教科書などを参考にして、自身が考えた在宅療養を持続する「健康」「安全」「住まい方」についてまとめる。	
課題提出②：4回目講義時提出 「食欲低下」「嚥下障害」「下痢」「便秘」「脱水」「呼吸困難」が起こる原因とその予防とケアについてまとめる。	
課題提出③：6回目講義時提出 第5回目講義時のDVDで視聴した事例を参考にして自身の考えと共に、地域・在宅に必要な社会資源(小児・障がい児(者)・高齢者などすべての年代において)について調べてまとめる。	
課題提出④：8回目講義終了後 セルフネグレクトに関する課題を取り上げ、記事の概要とその記事に対する自身の考えについてまとめる。	
課題提出⑤：8回目講義終了後から3週間後に提出 在宅での看取り、緩和ケア、終末期の在宅療養などに関する書籍を1冊選び、在宅で実践された看護ケアの意義について自身の考えをまとめる。	
* 課題作成には必ず引用文献を用い、課題レポートには引用した文献、書籍について正しい記載をする。	
* 課題は手書き不可とし、表紙は必ずつける。課題の提出方法は、講義時に説明する。	

実務経験を活かした教育の取組	
・担当教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。	